

「星の王子さまとめぐる星ぼしの旅」

川崎市立宮前小学校六年

長谷川 はせがわ 拓哉 たくや

皆さん？僕は宇宙に興味を持ちましたことはあります。すか？僕はあります。地上からも見える「月」という一番近い星です。人間は到達するのが難しいです。ところには、もともと到達するのが達するのが難しいところには、何が隠されているのか、全然知らない生物が人間のように生活しているのか、気になりません。え、ぼくがこの本を読んだことは、「答」にこだわるのではないという事です。つまり別の答えはなんだろう、なんでこの答えになるのだろう。というただの答えではない。別の答えについてよく考えさせられる本だ。ということを思いましました。この本を読んだというちに想像力がとてもふくらんで、なか一つの考えていた「テーマ」の印象が、一度ガラリと変わりました。ぼくがこの本を薦めた理由は、もともとぼくが宇宙が好きで本の題名を見て「面白そう」と思ってたので、中身を読んでみたとしても面白かったのだ、皆に勧めたいと思います。の、小さい頃は、ただ真上にあるくらい暗いもの、そのときの本を読んだら「宇宙」と限らずすべてのこの本の印象が変わると思います。この本は、人の想像力を大いに広げてくれます。なす。自分か、自分が思っている答えは果たして本当なのか。正解なのか。その本はどのような考え方になす。この本です。この本は、読みやすいので、ぜひ皆さんも読んでみてください。